

故 名誉員 元関西支部長 島 重治君 略歴



名誉員 元関西支部長 島 重治君は去る4月17日松坂市殿町において老衰のため死去された。享年86才。



明治5年長崎市で生れ、30年7月東京帝国大学工科大学土木工学科を優秀な成績で卒業、同年9月大阪市に入り築港事務所技師となられ、有名な元大阪府知事、元農商務次官 西村捨三（酔處翁）氏が所長で、その知遇を得て大阪築港の建設に献身された。のち、韓国灯台局長、内務省技師（新潟）、大阪府土木課長を経て、内務省土木局第一技術課長を最後に退官、再び大阪市に入られた（昭和3年5月）。故関一市長の懇望によつて、理事・土木部長に就任されてからは街路事業、治水事業、公園事業等の促進につとめ、大阪市の都市計画並びに、一般土木事業の黄金時代を現出した。大阪城公園とその天守閣、新大阪ホテル等の建築工事も、その間に完成されたのである。

土木学会のためにもたえず尽力され、昭和6年度の関西支部長として支部の発展に寄与された。昭和9年6月病気のため大阪市を退職、以後は表面に立つことなく余生を送っていた。



性行清廉潔白、几帳面で、イエスとノオのきわめてはつきりした質であつた。青年期には庭球、野球をやり、中年からは謡曲、碁、雅楽等に親しまれた。酒が好きでこれは最後までたしなんだ由である。信子夫人は前述の西村捨三氏の姪、男子二人、女子七人の子福者で長男 重信氏はスウェーデン駐在全権大使としてストックホルムで勤務中、次男 重義氏は三菱電機の幹部職員である。



同君は生前すでに大阪市菅瓜破霊園に自らの墓地を準備していたが、遺骨は同所に6月6日、50日祭を期して葬られた。

（名誉員 福留 並喜・記）